

水産試験場概要*

1 建物・施設等

総面積 3,241 m²

建物敷地面積 2,616 m²

建物延面積 1,641 m²

本館延面積 399 m²

附属施設延面積 (7 棟) 1,242 m²

漁業調査船「きのくに」

平成 8 年 11 月竣工 鋼製 99 トン、ディーゼル 1,200 馬力

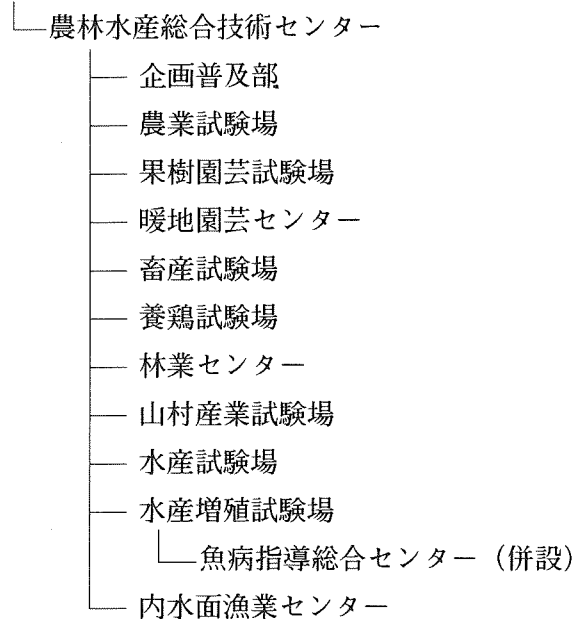
漁業公害調査指導船「しお風」

昭和 57 年 3 月竣工 FRP 製 7.95 トン、ディーゼル 85 馬力

2 機構と組織

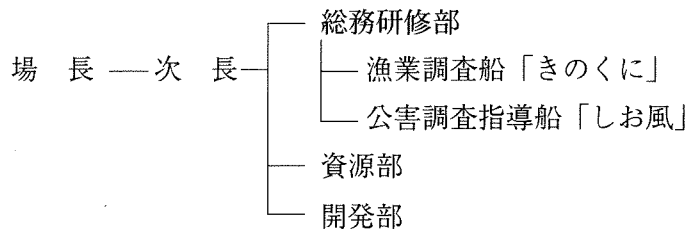
1) 機構

農林水産部 —— 農林水産総務課



(但し水産関係機関の主管課は、当分の間、水産課)

2) 内部組織



*平成 13 年度農林水産総合技術センター年報、水産試験場概要に一部加筆、訂正、削除したものである。

3 職員の構成

区分	行政職	研究職	現業職	計
場 長		1		1
次 長	1			1
総務研修部	5	1	4	10
資 源 部		5		5
開 発 部		5		5
計	6	12	4	22

4 職員と事務分担

部 名	職 名	氏 名	事 務 分 担
	場 長 次 長	田 中 嘉 治 濱 口 幸 洋	場の総合企画及び総括 場長の補佐、職員の人事・服務、予算の総括、公印の管理、作業員賃金の歳出事務、広報
総 務 研修部	部 長 主 査	渡 辺 勇 二 郎 小 林 秀 司	部の総括・企画調整、漁民研修、委託料・旅費等の歳出事務 歳入歳出事務、文書の收受発送、物品の調達、給与・共済・互助会事務、庁舎・公用車の管理
	船 長 機 関 長 航 海 士 機 関 士 船 員 船 員 船 員 用 務 員	藤 井 一 人 亀 谷 弘 小 西 寛 弥 岸 幸 一 河 田 進 一 住 谷 勝 志 堀 浩 一 田 中 千 秋	調査船「きのくに」の運航管理、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の機関管理、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の運航、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の機関操作、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の甲板業務、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の甲板業務、海洋調査・観測 調査船「きのくに」の機関操作、海洋調査・観測 場の環境美化、その他の雑務
資 源 部	部 長 主査研究員 副主査研究員 研 究 員 研 究 員	竹 内 淳 一 武 田 保 幸 諏 訪 剛 御 所 豊 穂 横 濱 蔵 人	部の総括・企画調整、人工衛星画像受診システムの運用（情報提供）、日本周辺高度回遊性魚類資源調査（カツオ）、イルカ資源調査 資源評価調査（TAC魚種など）、資源回復計画（サワラ） 漁況海況予報事業（海洋観測、係留系・定地観測、モジャコ）、海洋構造変動パターン解析技術 漁況海況予報事業（海洋観測、定地観測）、資源評価調査（シラス、卵稚仔、プランクトン） 漁況海況予報事業（海洋観測、係留系観測）、人工衛星画像解析システムの運用（システム保守）日本周辺高度回遊性魚類資源調査（マグロ類・カジキ類・サメ類）
開 発 部	部 長 主任研究員 主査研究員 主査研究員 主査研究員 研 究 員	堀 木 信 男 吉 村 晃 一 小久保 友 義 狭 間 弘 学 奥 山 芳 生 上 出 貴 士	部の総括・企画調整、複合的資源管理型漁業促進対策（マダイ） 広域資源増大緊急モデル（クルマエビ）、複合的資源管理型漁業促進対策（タチウオ、ヒラメ）、栽培漁業推進対策（ヒラメ） 人工礁漁場造成技術・沿整効果調査、複合的資源管理型漁業促進対策（イサキ） アワビ類資源総合対策調査研究、藻場の修復・造成と管理手法に関する研究 アワビ類資源総合対策調査研究（アワビ）、複合的資源管理型漁業促進対策（イセエビ） 赤潮・貝毒調査、漁場環境（水質、底質）、アワビ類資源総合対策調査研究（藻場）

5 平成13年度事業予算と財源内訳

(単位千円)

事業名	予算額	財源内訳			
		国庫補助金	国庫委託金	雑入	一般財源
水産試験場費	61,705	2,008	9,236	13,253	37,208
水産試験場運営	10,620				10,620
漁民研修	273				273
調査船運航	16,379				16,379
漁況海況予報	3,236	1,008			2,228
漁業資源調査	13,253			13,253	
内湾・沿岸域における漁場環境調査	2,662				2,662
人工礁漁場造成事業効果調査	5,000		5,000		
人工衛星画像受信解析システムの運用	2,548				2,548
日本周辺高度回遊性魚類調査	3,100		3,100		
イルカ資源管理調査	1,136		1,136		
アワビ類資源総合対策調査研究	3,498	1,000			2,498
水産業振興費	7,202	3,313			3,889
複合的資源管理型漁業促進対策	3,118	1,559			1,559
広域資源増大緊急モデル	2,130	1,065			1,065
漁場保全対策推進	150	75			75
栽培漁業推進対策	576				576
資源回復計画	1,228	614			614
漁業構造改善費	1,620				1,620
漁場効果調査	1,620				1,620
漁業調整費	250	125			125
T A C	250	125			125
合 計	70,777	5,446	9,236	13,253	42,842

6 平成13年度試験研究(調査)結果の概要

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
漁況海況予報事業 (資源管理体制実施推進事業、海洋構造変動パターン解析技術開発試験) 3,236千円(国補)	H9～13 資源部	[内容] 本県沿岸の海況と漁況に関する基礎資料を定期的に収集し漁海況変動の予測を行うとともに、その情報を迅速に処理して関係者に提供する。また、海洋構造の迅速な把握と変動のパターン化を行うための技術開発試験を実施する。 [結果] 海洋観測調査(沿岸・浅海定線)を月1回実施すると共に各地の水揚げ量を集計し、それら情報を漁海況速報(週1回、FAX)として関係機関へ提供した。また、海洋構造については沖合・沿岸域の水深別流向・流速データの収集を行った漁海況変動の予測のための基礎的データとして有効利用した。
人工衛星画像受信解析システムの運用	H8～ 資源部	[内容] 人工衛星画像受信解析システムを運用(保守管理)共に、受信した画像を解析し即日情報として迅速に提供する。

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
2,548千円（県単）		<p>〔結果〕 画像情報を人工衛星画像海況速報（FAX）又はパソコン通信（カラー画像）により関係先へ提供した。これらの情報は、FAXボックス（白黒版）と本県ホームページ（カラー版）で一般にも情報公開した。</p> <p>情報は漁場探索情報として役立ち、磯釣り・ダイビングなどにも利用されている。</p>
漁業資源調査 （資源評価調査） 14,256千円（国委）	H12～H14 資源部	<p>〔内容〕 我が国周辺水域における水産資源の回復と持続的利用の科学的基礎となる主要魚種の基礎資料を収集するとともにその資源評価を行う。</p> <p>〔結果〕 アジ、サバ、イワシ等について、漁獲状況調査、卵稚仔調査（沖合定線、モジャコ調査）、生物情報収集調査、標本船調査等により基礎データを収集し、それに基づく資源評価を行った。</p> <p>とくにT A C関連魚種について、その資源評価をし、当該資源の合理的な利用をはかるための有効なデータとなった。</p>
日本周辺高度回遊性魚類資源調査 3,132千円（国委）	H13～17 資源部	<p>〔内容〕 高度回遊性魚類資源の科学的データを完備するため、カツオ、マグロ類、カジキ類等漁獲実態調査を実施する。（勝浦・串本漁港他）。</p> <p>〔結果〕 漁獲状況調査（カツオ・マグロ類・カジキ類・サメ類）及び生物測定調査（カツオ・クロマグロ、ピンナガ、サメ類）を行い、データを収集した。また、マグロ類については、体重測定資料の収集・漁況概況の聴取なども行った。</p> <p>本種の科学的データを整備し、資源の安定的な利用確保に役立てる。カツオ及びピンナガなどの漁況予報の基礎資料として利用した。</p>
イルカ資源管理調査 755千円（国委）	H10～14 資源部	<p>〔内容〕 イルカ類の資源管理に関する基礎資料を収集するため、現地市場調査を行う（勝浦漁協）。</p> <p>〔結果〕 イルカ突棒漁業等により漁獲されたイルカ類について、水揚げ状況（種類、数量、重量等）及び生物調査（種類、性別、体長等）を行い、その操業実態を調査した。</p> <p>イルカ突棒漁業の操業実態調査によって調査率の向上をはかり、本種の資源管理の基礎資料として役立てることができた。</p>
先端技術等実用化研究促進事業（藻場の修復・造成と管理手法に関する研究） 1,860千円（国補）	H12～14 開発部	<p>〔内容〕 磯焼けがみられる海域において、カジメ類の造成技術の開発を検討する。</p> <p>〔結果〕 ・アワビ類の餌料となるカジメ類の本県沿岸における分布が明らかになった。また、カジメ類群落が衰退している海岸、安定している海岸が存在することがわかった。</p> <p>・カジメ類群落の衰退する年は10～12月に平年水温より平均0.9～1.4℃水温が高い期間がみられることが明らかになった。</p>

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
		<ul style="list-style-type: none"> ・カジメ類群落の衰退は高水温によって引き起こされ、群落の回復を阻害するのはウニ類などの食害生物であることが明らかになった。 ・比井崎沿岸では食害防除ネットを付けることでクロメの生育が確認された。
アワビ類資源総合対策調査 研究事業 1,498千円（県単）	H11～14 開発部	<p>〔内容〕 漁獲量の減少が著しいアワビ類について、それぞれの地先に応じた総合的な資源対策の手法の確立を図る。</p> <p>〔結果〕 放流効果調査：和歌山市加太において、放流種苗の回収率を試算したところ、クロが3%、メガイが10%であった。</p> <p>漁業実態調査：天然資源の資源解析を行ったところ、漁獲物としては3歳以上のものが漁獲されていることがわかり、資源対策の手法を確立するための基礎資料が得られた。</p>
内湾・沿岸域における漁場 環境調査 2,662千円（県単）	H13～ 開発部	<p>〔内容〕 内湾・沿岸域にある主要な漁場・養殖漁場の環境の実態を把握し、水域の改善及び保全技術のための基礎資料を得る。</p> <p>また、赤潮や貝毒など海洋微細生物によって引き起こされる漁業上有害な現象の調査及び情報の整理・提供を行う。</p> <p>〔結果〕 赤潮調査：赤潮発生件数は14件（11月 末現在）で昨年より2件多かった。4月から6月にかけて西海岸でNoctiluca scintillans赤潮が広範囲に出現した。7月31日にはMesodinium rubrum が紀ノ川河口で赤潮となり、8月に入ると日ノ御崎以北で大規模な赤潮となった。この赤潮の終期には貧酸素水塊が発生し、漁業被害が生じた。</p> <p>貝毒調査：加太・和歌浦湾・湯浅湾・浦神湾で貝毒調査を行った。毒性検査はいずれも陰性で、貝毒原因プランクトンも観察されなかった。</p> <p>漁場環境調査：和歌浦湾・湯浅湾・浦神湾・森浦湾の四海域で年4回漁場環境調査を行った。その結果、いずれの海域も極度に富栄養化した海域ではないことが明らかになった。</p>
漁場保全対策推進事業 150千円（国補）	H7～ 開発部	<p>〔内容〕 串本浅海漁場の水質環境の把握並びに保全技術の開発を図る。</p> <p>〔結果〕 串本浅海漁場で毎月1回水質調査を実施した。また、4月と10月にベントスと底質調査を実施した。</p>
広域資源増大緊急モデル事業 2,130千円（国補）	H13～17 開発部	<p>〔内容〕 クルマエビの放流効果等を把握するため、種苗放流と資源のモニタリング調査を実施する。</p> <p>〔結果〕 8月28日、10,000尾（養殖種苗、体長63.2mm）にリボンタグ標識を装着して、和歌浦湾奥部の毛見地先に放流した。また、雑賀崎市場において体長測定と標識放流エビの確認を行ったが、11月末までのところ確認できない。</p>
栽培漁業推進対策事業 576千円（県単）	H13～ 開発部	<p>〔内容〕 ヒラメの放流効果等を把握するため、種苗放流並びに市場調査、買い上げ調査を実施する。</p>

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
		<p>〔結果〕 雑賀崎市場における4月の放流魚の混獲率は19%であった。そして、5月以降のヒラメの漁獲量は極めて少なくなった。また、湯浅市場では4月の放流魚の混獲率は12%であり、5月から10月の間の混獲率は10%以下であった。</p>
<p>沿整効果調査 1,773千円（県単）</p>	<p>S55～ 開発部</p>	<p>〔内容〕 沿整事業や県単事業で造成した人工魚礁漁場の経済効果を把握することにより、事業の妥当性の検証並びに今後の事業への活用を図る。</p> <p>〔結果〕 沿整事業で造成した日高中部、日高南部、西牟婁中部地区人工礁での効果の検証を目的に、利用船調査を実施し、各人工礁での漁業者の利用状況を明らかにした。また、県単事業で造成した市江、潮岬、太地沖（各1基）に設置した中層式浮魚礁の利用状況を明らかにした。春を中心に魚礁付近でカツオの水揚げがあった。</p>
<p>複合的資源管理型漁業促進 対策事業 3,118千円（国補）</p> <p>マダイ 480千円 ヒラメ 664千円 タチウオ 216千円 イサキ 1,092千円 イセエビ 666千円</p>	<p>H10～14 開発部</p>	<p>〔内容〕（マダイ）資源並びに放流・資源管理効果のモニタリング調査を行う。また、資源管理計画の見直し並びに漁業種類の拡大を図る。</p> <p>（ヒラメ）資源状況の把握並びに資源管理効果のモニタリング調査を実施する。また、資源管理計画の見直し並びに漁業種類の拡大を図る。</p> <p>（タチウオ）資源状況の把握並びに改良網による試験操業等の調査を実施する。</p> <p>（イサキ）漁業実態を明らかにするため漁業実態調査、成熟・産卵調査等を継続実施する。また、資源管理指針を作成する。</p> <p>（イセエビ）各地先における漁業実態並びに移動・成長を明らかにするため、漁業実態調査、標識放流等を実施する。また、今までの結果を基に資源管理指針を作成する。</p> <p>〔結果〕（マダイ）加太地区の一本釣では1～3歳の未成年魚が多く釣獲され、雑賀崎地区の小型底びき網では0歳魚が最も多く漁獲されている。市場における放流魚（当歳魚）の混獲率は、H9年3.19%、H10年1.51%、H11年0.60%、H12年0.80%である。更に、資源管理計画の見直しを行った。</p> <p>（ヒラメ）資源管理効果のモニタリング調査を実施したところ、再放流の実施は増えているが尾数の把握は困難であった。また、小型底びき網の漁期がやや遅れ、4月の漁獲量が増加した。更に、資源管理計画の見直しを行った。</p> <p>（タチウオ）改良網の網目選択効果は実証されたが、取り付け部（ファスナー）の耐久性が未だ不明のため、広く普及がなされていない。</p> <p>（イサキ）田辺漁協を中心に、御坊～すさみの間で釣りにより多く漁獲され、多獲される尾叉長モードは20～24cmで、調査</p>

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
		<p>個体数(約16,000尾)の69%を占めている。更に、イサキの資源状況を把握し、資源管理指針を作成した。</p> <p>(イセエビ)イセエビの漁獲実態を明らかにするため熊野灘の3漁協において、漁獲物調査等を実施した。また、移動・成長等を明らかにするため、標識放流エビの再捕状況を取りまとめた。更に、イセエビ資源並びに管理状況を把握し、資源管理指針を作成した。</p>

7 一般業務概要

1) 平成13年度刊行物一覧

平成12年度	複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書	漁海況速報(週刊)
平成8~12年度	放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書 (瀬戸内海東部ブロック)	和歌山県漁海況情報(月刊)
平成12年度	事業報告書	赤潮情報(赤潮発生時に発行—22回)
平成12年度	漁海況予報事業報告書	沖合黒潮調査速報 (黒潮横断観測実施ごと発行、2001-No.2~9、2002-No.1~2)
		人工衛星画像海況速報 (2001-No.44~179、2002-No.1~56)
		水試だより(奇数月に発行)

2) 平成13年度主要な技術研修及び講演等実績

月	内 容	場 所	対 象
4	平成12年度漁海況予想について モジャコ漁に関する漁海況報告 人工衛星画像からみた黒潮の短期変動とひき縄カツオ漁について 紀伊水道周辺におけるマサバ、マアジ、マルアジの資源特性と資源動向	那智勝浦町 勝浦漁協会 議室 串本町 水産試験場 研修室 串本町 水産試験場 研修室 徳島市	平成13年産ぶり養殖種苗に関する受給調整協議会出席者 モジャコ採捕漁業者・養殖業者 平成13年産ぶり養殖種苗に関する受給調整協議会出席者 モジャコ採捕漁業者・養殖業者 和歌山海区漁業調整委員会出席者 和歌山・徳島漁業者懇談会出席者
5	紀伊半島沖へのカツオ北上ルート—カツオ群の黒潮乗り越え—	東京都	衛星リモートセンシング推進委員会H13年度第1回会合出席者
6			
7	赤潮の発生について	有田市 有田振興局 会議室	県漁業士連絡協議会
8	紀伊水道の海況について	和歌山市	水産試験場研究業務説明会出席者

月	内 容	場 所	対 象
	近年の紀伊水道におけるシラス資源の動向について クルマエビ漁獲について アワビ類（藻場）について 水産試験場の業務内容及び提供できるデータについて タチウオについて 和歌山県における赤潮発生について	西脇漁協会議室 湯浅町 有田振興局会議室 御坊市 和歌山南部農業共済組合御坊支所会議室	
9	紀伊水道周辺におけるマサバの漁獲動向 人工衛星画像海況情報とカツオ漁について イサキについて アワビ類（藻場）について 和歌山県における赤潮発生について 紀伊水道産マルアジ耳石の年齢別形質としての有効性	高知市 出席者 田辺市 西牟婁振興局会議室 那智勝浦町 栽培漁業センター 藤沢市	平成13年度中央ブロック資源・海洋研究会 水産試験場研究業務説明会出席者 平成13年度日本水産学会秋季大会
10	平成12年和歌山県漁業の概要	和歌山市 和歌山統計事務所	沿岸漁業等動向把握検討協議会出席者
11	紀伊水道におけるシラス漁場形成と混獲率	広島市	平成13年度瀬戸内海ブロック魚類研究会出席者
12	紀伊半島周辺におけるモジャコ採捕量の経年変動とその要因	東京都	東大海洋研究所共同利用研究集会 「黒潮の生物輸送と生産機能」出席者
1	イセエビの標識：イラストマー標識について 紀伊半島沖の黒潮変動とカツオ漁場 沿岸カツオ漁業への衛星リモートセンシングの利用 紀伊半島沖の黒潮変動とカツオ漁場 衛星画像からみた紀伊半島沖の海況変動とカツオ漁況	広島市 串本町 三重県 浜島町 串本町 串本漁協 会議室 潮岬測候所 会議室	平成13年度瀬戸内海ブロック介類研究会出席者 西牟婁振興局学習会出席者 水産海洋地域研究集会出席者 串本漁協役員会出席者 潮岬測候所職員
2			
3	藻場の修復・造成と管理手法に関する研究	東京都	平成13年度先端技術等地域実用化研究促進事業出席者

3) 平成13年度研究成果の発表・公表

(1) 著書

題 名	発 表 者	発 表 誌

(2) 学会発表・学会誌等への投稿

題 名	発 表 者	発 表 誌
紀伊水道周辺におけるマサバの漁獲動向	武 田 保 幸	黒潮の資源海洋研究 第3号,63-68.
紀伊水道の微細な海洋構造	諏 訪 剛	黒潮の資源海洋研究 第3号,17-28.
近畿圏における赤潮・貝毒・アオコの問題 和歌山県沿岸	上 出 貴 士	平成13年度日本水産学会近畿支部後 期例会シンポジウム
和歌山県中部の碎波帯におけるアユ仔魚の 分布	東 健 作 平 賀 洋 之 堀 木 信 男 谷 口 順 彦	水産増殖50 (1) ,9-15
紀伊水道周辺海域におけるマルアジの回游	武 田 保 幸	水産海洋研究66 (1) ,26-33.
紀伊水道における底層冷水とプランクトン 量の経年変動特性	竹 内 淳 一	海と空77 (2) ,91-98.
紀伊水道におけるシラス漁場形成と混獲率	御 所 豊 穂	第3回瀬戸内海ブロック魚類研究会報告, 25-27.

(3) 農林水産省研究会等資料

題 名	発 表 者	発 表 誌
平成13年産ぶり養殖種苗に関する需給調整 協議会	竹 内 淳 一	同会議資料
平成13年度中央ブロック海洋構造変動 パターン解析技術開発事業第1回海域検討会	諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度第1回太平洋イワシ、アジ、サバ 等長期漁海況予報会議	武 田 保 幸 諏 訪 剛 竹 内 淳 一	同会議資料
平成13年度中央ブロック海洋構造変動 パターン解析技術開発事業第2回海域検討会	諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度第2回太平洋イワシ、アジ、サバ 等長期漁海況予報会議	武 田 保 幸 諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度第3回太平洋イワシ・サバ 長期漁海況予報会議 (FAX会議)	武 田 保 幸 諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度日本周辺高度回遊性魚類資 源調査事業報告会	竹 内 淳 一 横 濱 蔵 人	平成13年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調 査委託事業報告書 (水産庁)
第3回瀬戸内海ブロック生物環境研究会	諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度浅海定線観測等担当者会議	諏 訪 剛	同会議資料
平成13年度遠洋漁業関係試験研究推進 会議まぐろ資源部会 ビンナガ分科会	竹 内 淳 一 小久保 友 義	平成13年度遠洋漁業関係試験研究推進会議マゲ ロ資源部会ビンナガ分科会
平成13年度イルカ資源管理調査検討会	竹 内 淳 一	平成13年度イルカ資源管理調査報告書

題 名	発 表 者	発 表 誌
第32回瀬戸内海東部カタクチイワシ等 漁況予報会議	武 田 保 幸	同会議資料
平成13年度中央ブロック卵・稚仔、プランク トン調査研究担当者協議会	武 田 保 幸 諏 訪 剛	平成13年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン 調査研究担当者協議会研究報告No.21 (印刷中)
紀州沖のカツオ漁況とエルニーニョ現象 との関係	竹 内 淳 一	中央水産研究所推進会議成果集
平成13年度漁場保全対策推進事業会議 (南西ブロック)	上 出 貴 士	同会議資料
平成13年度漁場環境保全関係試験研究推進 会議 赤潮・貝毒部会	上 出 貴 士	同会議資料
平成13年度赤潮貝毒西日本ブロック会議	堀 木 信 男 上 出 貴 士	同会議資料
平成13年度瀬戸内海ブロック介類研究会	奥 山 芳 生	同会議資料
平成13年度県栽培漁業推進協議会	堀 木 信 男 吉 村 晃 一 奥 山 芳 生	同会議資料
平成13年度県資源管理型漁業推進協議会	堀 木 信 男 吉 村 晃 一 小久保 友 義 奥 山 芳 生	同会議資料
平成13年度県複合的資源管理型漁業促進対 策事業 (瀬戸内海地域) 漁業者検討会 (太平洋地域) 漁業者検討会	堀 木 信 男 吉 村 晃 一 小久保 友 義 奥 山 芳 生	同会議資料
瀬戸内海ブロック情報交換連絡会議	吉 村 晃 一	同会議資料
平成13年度瀬戸内海東ブロック広域協議会	吉 村 晃 一	同会議資料
平成13年瀬戸内海東部及び西部合同評価検 討会	吉 村 晃 一	同会議資料

(4) 新聞掲載等

記事見出し (内容)	掲載年月日	掲 載 誌 名
カツオ漁最盛期 黒潮接近し30トン水揚げ	H.13.4.14	読賣新聞
イセエビ漁解禁 熊野灘の各漁協活気	H.13.9.18	読賣新聞
戻りカツオ不漁、昨年比300分の1に激減	H.13.10.26	読賣新聞
新宮周辺でマイワシ豊漁	H.13.10.31	読賣新聞
戻りカツオ不漁、10月の水揚げ120キロ	H.13.11.7	読賣新聞
黒潮の記、カツオ、回遊ルート探る	H.14.1.7	読賣新聞
初カツオ漁活気、串本漁港続々水揚げ	H.14.3.23	読賣新聞
海況速報	不定期	南紀州新聞
海況情報	毎週1回	週刊南紀ウィークリー
西さんの釣り情報	毎週金曜日	毎日新聞
「こちら海です」	毎日	和歌山放送
毎日：串本・田辺・勝浦・加太の定地水温		
随時：衛星画像速報による海況の解説を引用		
釣り情報	毎週木曜日	N H K